

**2024年度 環境フィールドスクール（11/23）**  
**「長崎の獣害対策—地域資源としての野生動物の活かし方」が行われました。**

2024年11月23日（土）に、長崎県農林部、イサハヤジビエ（諫早鳥獣処理加工販売組合）の方々のご協力を賜り、鳥獣被害の実態と対策について学び、イノシシの解体を通じて利活用のありかたを考えるフィールドスクールを実施しました。事前の説明会を通じて各自で調べ学習を行い、当日解体したイノシシ肉は各自で持ち帰り、イノシシの部位などに応じて調理に挑戦し、レシピを作成するところまでを実習としました。

午前中に長崎県農林技術開発センターを訪問し、イノシシ対策の専門家である平田滋樹氏ならびに長崎県の鳥獣害担当者より、獣害問題とその対策の現状について解説いただきました（写真1）。午後は組合代表の永尾洋一氏の協力のもとイノシシの止め刺し（とめさし）の様子を見学させていただき（写真2）、付近にある野生動物が掘った穴などもさがしました。その後は解体処理センターにて、ご指導をいただきながらイノシシを自分達の手で解体しました（写真3）。

イノシシ肉はさらに学内でミンサーやスライサーで調理しやすく加工し、安全かつ美味しくいただくためにはどう調理したらよいか、各々が工夫を凝らしながらレシピを考案しました。今回はソーセージ作りに挑戦した学生もいました。



写真1：獣害問題の現状や対策の方法を学ぶ  
（長崎県農林技術開発センター）



写真2：イノシシの止め刺しの様子を見学



写真3：イノシシの解体体験



集合写真（猪解体処理センター）